

授業科目等の概要

(専門課程看護学科) ※令和4年度入学生から適応																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			論理的思考	日常生活においてなぜ論理的な思考が必要か、論理的思考力とはどのようなものか学ぶ。その上で、身近な話題を取り上げ、情報・資料を収集・分析し、論理的な主張を構築し、文章を記述・発表する。相互に意見を伝え合い、論理的な議論を通して相互理解が深まる言語活動を展開する。	1 年 前 期	30	1	○			○		○		
2	○			生活行動科学	生活の行動や生命の営みを物理と科学の視点から理解し、看護の方法や医療器具の原理を学んでいく。	1 年 前 期	30	1	○			○			○	
3	○			教育学	人間の成長に関わる教育の機能について理解を深め、看護における教育的側面を理解する。学ぶことの必要性・教育方法・指導方法・評価方法を学ぶ。	2 年 前 期	15	1	○			○			○	
4	○			情報リテラシー	情報科学の基礎および看護に求められる情報リテラシーをはじめコンピューターを用いた情報処理技術やよく用いられる統計手法の考え方や理論を知り、実際に統計ソフトを使用しながらグラフや表作成の基本を学び、科学的研究方法を基礎を培う。	1 年 前 期	30	1	○		△	○			○	
5	○			英会話	日常英会話の場面・文化・生活に使われる英語を理解し、看護場面で活用できる英会話を体験的に学ぶ。良い人間関係を築くための会話のコツを学ぶ。	2 年 前 期	30	1	△		○	○			○	
6	○			医療英語	カルテや英語文献を読める力を養う。英語文献にふれることで、国際化・情報化のきっかけとする。	3 年 前 期	15	1	○		△	○			○	
7	○			キャリアデザイン	自らの人生と看護のキャリア形成について、自分の将来をデザインするための基礎的能力を養う。看護を目指すものとしての自分自身に向き合い、働くことに対する考え方や希望を明らかにできるように働く先輩の声を聴きながら、自分の将来像を描く。同時にキャリアデザインの実現に向けて身につけたい能力を学ぶ。	1 年 後 期	15	1	○			○			○	
8	○			生物学	生物を細胞レベルで理解するとともに、生物の不思議で巧みに営む生物のシステムを感じ取り、不思議や疑問に思ったことを大切に、生物とは何か、生きるとは何かを考える。	1 年 前 期	30	1	○			○			○	
9	○			心理学	人の体験と行動の発生と発達のプロセス、法則、背景メカニズムや適応的意義など、心理学の基本的な知識を学ぶ。	2 年 前 期	30	1	○			○			○	

46	○		看護研究	看護職者として必要な研究力を知り、よりよい看護を追求するための方法を学ぶ。事例検討を通してこれからの自分の仕事への価値を見出す。	3年後期	30	1	○			○		○					
47	○		看護管理	看護活動が円滑に行われるために必要な看護管理、看護職者としてのリーダーシップを学ぶ。今までの学習を活かして社会に求められる看護職の役割と責務を考える。	3年前期	15	1	○			○							○
48	○		地域・在宅看護論概論	暮らしの視点を大切に、地域で暮らす人々について理解し、その方々のサポートを学ぶ。	1年前期	15	1	○			○			○				○
49	○		地域・在宅看護論演習	人々の暮らしの場である地域を生活者と看護の視点から学ぶ。健康に向けて人々がどのような暮らしを営み考えているかを個人・グループで実習体験も活用しながら考えを深める。	1年後期	45	2	△	○		○		△	○				
50	○		地域・在宅看護の方法Ⅰ	地域・在宅看護の対象である療養者と家族の役割や関係性を理解を深める。	2年前期	30	1	○	△		○		△	○				○
51	○		地域・在宅看護の方法Ⅱ	地域・在宅看護での医療管理・専門職との連携・関わりの実際について学び、様々な職種や在宅専用器具に触れ、地域・在宅での看護について理解を深める。そこから暮らしの質を支えることと医療的看護について学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	△	○			○				○
52	○		地域・在宅看護の方法Ⅲ	今までの学習を活かし、訪問看護ステーションの設立と領域別事例の支援マップの作成と意見交換を通して、暮らしや生活者の視点を持ち、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を理解する。	3年後期	30	1	○	△		○			○				○
53	○		成人看護学概論	自分や周囲の成人期にある方の実状と統計から成人期の特徴と健康問題を知り、保健・医療・福祉政策を調べ、成人看護の対象を理解し、健康支援をするための基礎を学ぶ。	1年後期	15	1	○			○			○				○
54	○		成人看護の方法Ⅰ	患者が慢性の病と共に、その人らしく生きられるための看護を講義や事例を用いた共同学習を通して学ぶ。	2年前期	30	1	○	△		○			○				○
55	○		成人看護の方法Ⅱ	心身に大きな影響を受ける手術療法に臨む患者が、周手術期を良好に経過し、その後の生活の再調整を図るための看護を講義と事例を用いた共同学習を通して学ぶ。	2年前期	30	1	○	△		○			○				○
56	○		成人看護の方法Ⅲ	急激な生命の危機状態にある患者の、生命と生活の質を維持する看護を講義と事例を用いた共同学習を通して学び、緊急時に自己の取る行動を考える。	2年前期	30	1	○	△	△	○			○				○
57	○		成人看護の方法Ⅳ	成人期の役割を果たしながらがん向き合いその人らしく生きられる看護を、講義や事例を用いた共同学習を通して学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	△	○			○				○

58	○		成人看護の方法Ⅴ	事例に関連させて活用できるよう、臨床で行われる専門性が高く侵襲を伴う看護技術を体験的に学ぶ。	2年前期	30	1	△	○	△	○		○				
59	○		老年看護学概論	いずれは自分も往く道を歩む老年期にある対象の特徴を高齢者との関わりや疑似体験を通し、社会の変遷を高齢者への政策や時事に関心を注いで理解し、福祉職を目指す学生との関わりを通して老年看護の機能と役割を学ぶ。	1年後期	15	1	○	△		○	△	○				
60	○		老年看護の方法Ⅰ	1年生で学んだ老年期の特徴と日常生活援助の学習を活かし、老年期にある対象の日常生活力とそれに及ぼす影響を理解し、健康生活への援助について具体的に学ぶ。	2年前期	30	1	○	△	△	○		○	○			
61	○		老年看護の方法Ⅱ	自己の高齢者観や死生観を意識し倫理的判断に基づく対応について考えながら、人生の最終段階にある高齢者の看護をするための方法を学ぶ。	2年後期	15	1	○	△	△	○		○	○			
62	○		老年看護の方法Ⅲ	高齢者の身体的特徴や治療に関する学習を活用し、治療を受けながら生活していく高齢者を理解し、看護実践をするための方法を事例を通して学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	△	○		○	○			
63	○		小児看護学概論	地域に暮らす子どもとその家族を取り巻く環境を理解する。成長発達が著しい子どもの特徴と社会の動きによる暮らしへの影響、子どもの権利を尊重するための姿勢を学び、看護の役割を考える。	2年前期	15	1	○	△		○		○	○			
64	○		小児看護の方法Ⅰ	小児看護学概論で学んだ成長発達の特徴の理解を深め、こどもの理解と生活援助、家族の援助を考え、体験しながら学ぶ。	2年前期	30	1	○	△	△	○		○	○			
65	○		小児看護の方法Ⅱ	小児に特有な疾患及び治療の実際を理解し、発達段階や家族がおかれている状況から、小児が障がいを抱えることが児や家族に及ぼす影響を考えながら看護の具体を学ぶ。	2年後期	30	1	○	△		○		○	○			
66	○		小児看護の方法Ⅲ	既習の知識を活用しながら、あらゆる状況や場における子どもと家族の健康な暮らしを理解し、社会の中で暮らす児の健やかな成長発達の促進に向けた必要な看護を実践的に学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	△	○		○	○			
67	○		母性看護学概論	多様化する母性の対象、社会情勢により変化する女性の生涯を理解しながら、母性とは何かを考える。地域で生活する母性の対象を守る施策や法律を学ぶ。命について他者との相違に気づき、性と生殖医療における倫理を考える。	2年前期	15	1	○			○		○	○			
68	○		母性看護の方法Ⅰ	ウィメンズヘルスを支える看護を理解する。母性看護学概論の学習を活用しながら、事例を通して女性の一生をライフサイクルを切り口に、ライフステージ各期における健康と意思決定を支える看護を学ぶ。	2年前期	30	1	○			○		○	○			

69	○		母性看護の方法Ⅱ	母性看護の方法Ⅰで学んだ成熟期にある女性のマタニティサイクル期に着目する。妊娠・分娩・産褥各期の女性と児の生理的変化の基礎的知識を学び、その知識を活かして各期の視点とアセスメント、健康を支える看護、妊産褥婦と児への看護技術を学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	△	○	○	○					
70	○		母性看護の方法Ⅲ	母性看護の方法Ⅱで学んだ産み育てに逸脱した女性と胎児・新生児に着目する。妊娠・分娩・産褥各期に起こりやすい異常と治の基礎的知識を学び、その知識を活かして各期の視点とアセスメント、障がいのある人々の特徴や生活にお予防影響をふまえた看護を学ぶ。	2年後期	30	1	○	△		○	○	○					
71	○		精神看護学概論	精神看護学の基盤となるところを、健康、精神保健活動、ところを病む人を取り巻く社会の現状と歴史を視点に理解し、精神看護の役割を学ぶ。	1年前期	30	1	○	△		○	○	○					
72	○		精神看護の方法Ⅰ	社会の中で生き生きと生活していく支援を考えるために、精神障害の病態・治療の知識を学ぶ。	2年前期	15	1	○			○		○					
73	○		精神看護の方法Ⅱ	病院の精神科医療から地域のケアへと向かう社会生活の場における精神保健活動の実際、地域生活におけるところの危機を支える制度と考え方を知り、回復に向けた看護、感情労働である看護職のメンタルヘルスを学ぶ。	2年前期	30	1	○			○		○					
74	○		精神看護の方法Ⅲ	ところの健康障害をもつ人の精神科における入院治療の意味を理解し、受診から入院、地域移行に至るまで患者や家族に必要な支援を学ぶ。	2年後期	15	1	○			○		○					
75	○		医療安全	医療・看護の安全を保つことについて、事故防止、感染防止の視点から根拠法や病院での現状と取り組みを知り、対象の安全を守る看護の知識と技術を学ぶ。	2年前期	15	1	○	△	△	○		○	○				
76	○		災害看護	災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関連しながら生命と生活に影響を及ぼしている認識をもち、日本や世界にも視野を広げ、災害時における看護活動について理解する。	3年後期	15	1	○	△		○		○	○				
77	○		国際情報論	国際社会に目を向け、多様な価値観・異文化の理解を講義やグループワーク、他国での看護活動の実際から深め、国際社会の情勢から看護に期待される役割を考える。	3年前期	30	1	○	△		○		○	○				
78	○		看護技術の統合	複数患者の事例をアセスメントし、ケアの優先順位を判断し、根拠をもってケア計画を立案し、状況の変化に合わせてケアを変更する。模擬患者に既習の知識と技術を統合して状況に応じた看護をその場で実践し、振り返りを通してよりよい看護を見出す。	3年後期	30	1	△	○	△	○		○	○				
79	○		基礎看護学実習Ⅰ	入院している看護の対象者との関わりを通し、自己の傾向を知り、看護におけるコミュニケーションについて体験的に学ぶ。	1年前期	45	1				○	△	○	○	○	○		

80	○		基礎看護学 実習Ⅱ	入院している対象に関わり、その対象の理解に必要な情報を理解し、看護的な気づきから対象理解を深め、対象の望ましい姿に近づくための援助を考え、日々の実践との関連を見出す。	2 年前期	90	2				○	△	○	○	○	○
81	○		基礎看護学 実習Ⅲ	入院している対象と関わり、自己の看護実践を省察し、他者からの意見をふまえ、よりよい看護を追求し、看護者としての自己を高める。	2 年後期	90	2				○	△	○	○	○	○
82	○		地域・在宅 看護論実習Ⅰ	地域・在宅看護活動を通して暮らしと暮らしが健康に与える影響を理解し、対象が活用・利用している社会制度やサポートを知る。	1 年後期	90	2				○		○	○	○	○
83	○		地域・在宅 看護論実習Ⅱ	地域・在宅看護活動を通して、地域に暮らす医療・看護を必要とする人々に対する継続看護・多職種連携、予防的視点の看護などを実践から学ぶ。	3 年前後期	90	3				○	△	○	○	○	○
84	○		成人看護学 実習	急性な経過を辿っている対象と関わり、急性期にある対象への看護を考え、急性の経過に合わせた看護を実践する。	3 年前後期	90	3				○		○	○	○	○
85	○		老年看護学 実習Ⅰ	入院している高齢者と関わり、その高齢者の特性を生活と関連づけて包括的に理解し、地域で暮らす対象がのぞむ姿に近づける生活援助を実施しながら、対象を取り巻く人々との連携から、自己の高齢者観を深める。	2 年前後期	90	2				○		○	○	○	○
86	○		老年看護学 実習Ⅱ	複数の高齢者に学生チームでも関わり、見えたその人らしさを援助に活かし、継続する看護実践のための看護チームでの協働を通して、老年看護の役割を見出す。	3 年前後期	90	3				○		○	○	○	○
87	○		小児看護学 実習	子どもや子どもを取り巻く保健・医療・福祉・教育など支援する人々との関わりを通して、社会の中でクラス子どもの健やかな成長発達促進に向け、児の権利を尊重し、児と家族に対する看護の役割を学ぶ。	3 年前後期	90	3				○		○	○	○	○
88	○		母性看護学 実習	病院・医院・助産院を利用している母性看護の対象関わり、対象を理解し、対象の生理的変化もふまえて健康促進に向けた看護の実践を通して、女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割を学ぶ。	3 年前後期	90	3				○		○	○	○	○
89	○		精神看護学 実習	さまざまな暮らしの中でこころを病む人とその支援者との関わり、その人が体験した苦痛や生きにくさを知り、その人のねがいや夢の実現のために必要な支援を考え、精神看護を深める。	3 年前期	90	3				○	△	○	○	○	○
90	○		統合実習	既習学習を総動員し、臨床判断思考を活用しながら複数患者に看護実践、夜間や看護管理や多職種の活動への参観を通して、チーム医療を担う看護専門職の役割を理解する。	3 年後期	90	3				○		○	○	○	○
合計						90科目		単位時間 (109単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【卒業の認定】学則第24条の規定により、成績評定の結果などを勘案した上、運営委員会の議を経て校長がこれを行う。しかし、学則「別表第2-1（看護学科教育課程）」の必修科目に掲げる科目の学科試験に合格しなかった者及び欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える者は、卒業することができないとしている。</p>	1学年の学期区分	前後期
<p>【履修方法】学則「別表第2-1（看護学科教育課程）」に定められた授業科目を履修する。当該科目の受験資格は、欠席時間数が各授業科目のそれぞれの時間数の3分の1を超える者には与えられない。各科目の単位認定は、講義については、学科試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。また、臨地実習における実習評定は、100点満点とし、60点以上を合格とする。</p>	1学期の授業期間	42週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。